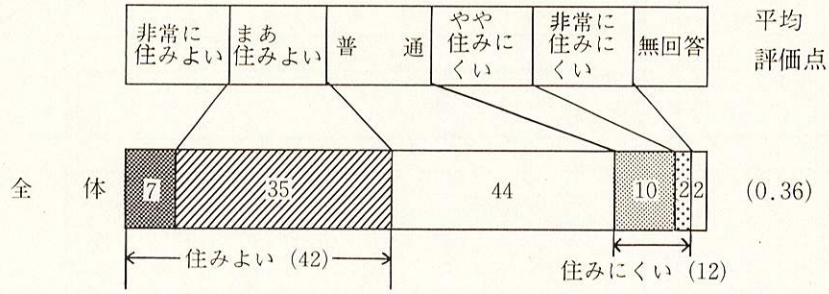
生活環境の評価

Ⅰ. 生活環境の評価

1. 全 体 評 価（住みよさ）

質 問 福生市はあなたにとって住みよいところだと思いますか。



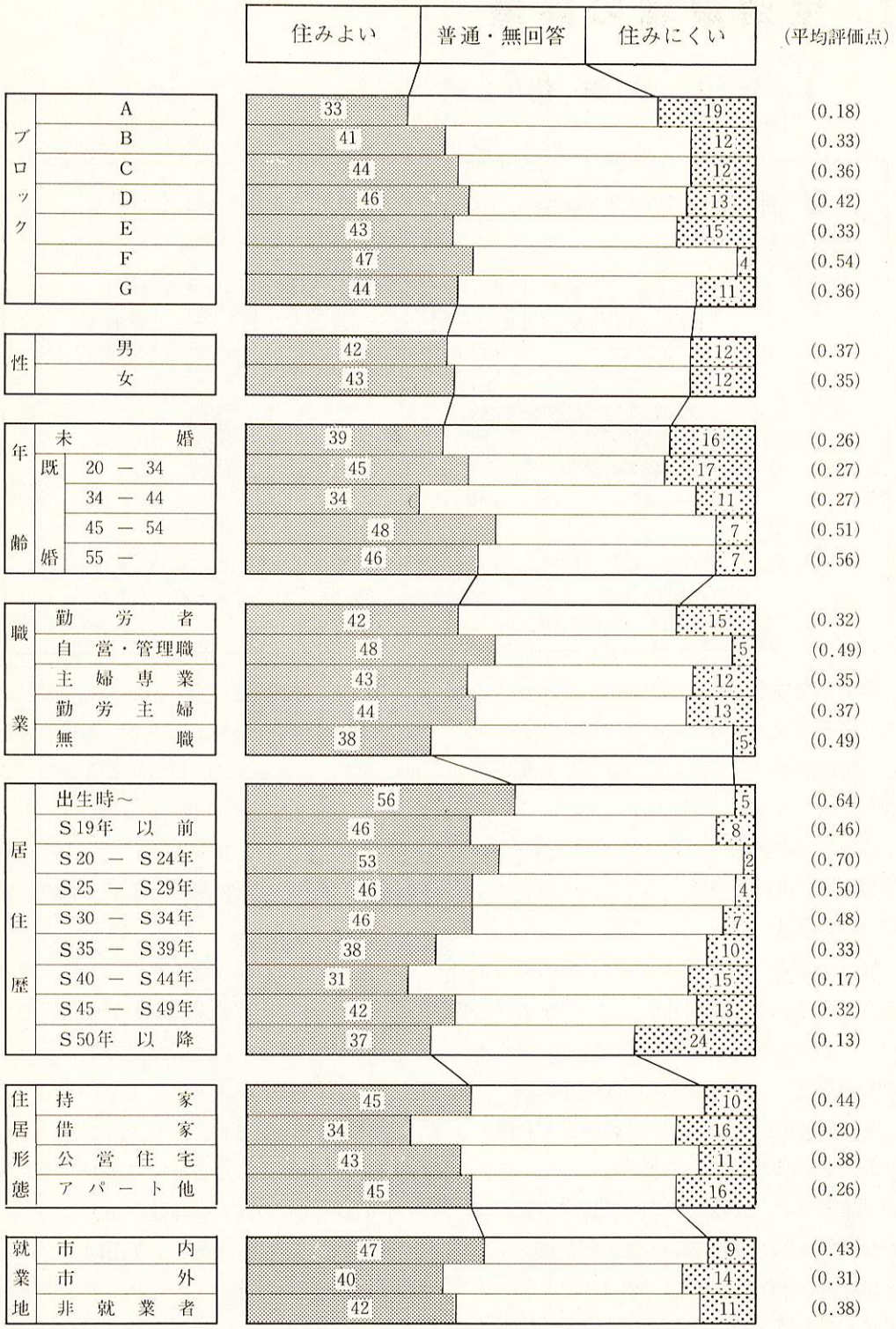
注）平均評価点とは「非常に住みよい」から「非常に住みにくい」までを順に＋2、＋1、±0、－1、－2と得点し加重平均したものである。したがって基準値は0.00となる。

福生市全体からみた住みよさは〝普通〟であるという見方が半数近くを占める。しかし「非常に住みよい」あるいは「やや住みよい」という肯定的評価が40％を超え「住みにくい」という否定的評価は10％強にとどまる。したがってこの評価に得点を与え加重平均すると＋0.36となり、全体としてはまあ住みよいといえる評価がされたといえよう。

住みよさの評価は一般に居住歴と相関するところが強い。新しい住民が多ければ、市への愛着の薄さが憂慮されるところであるが、居住歴の浅い住民が多い調査結果から判断すれば、かなりよい評価がされたといえよう。

特に、本市の場合、昭和50年以降の転入者でも住みよいという意見が住みにくいという意見を上回っている。昭和40年以前の居住者からは住みにくいという否定的意見が10％以下となり、10年たてば住みにくさがなくなるともいえる。また、昭和34年以前の居住者は住みよいという肯定的意見が50％前後を占め20年住めば、市への愛着が深くなるといえよう。

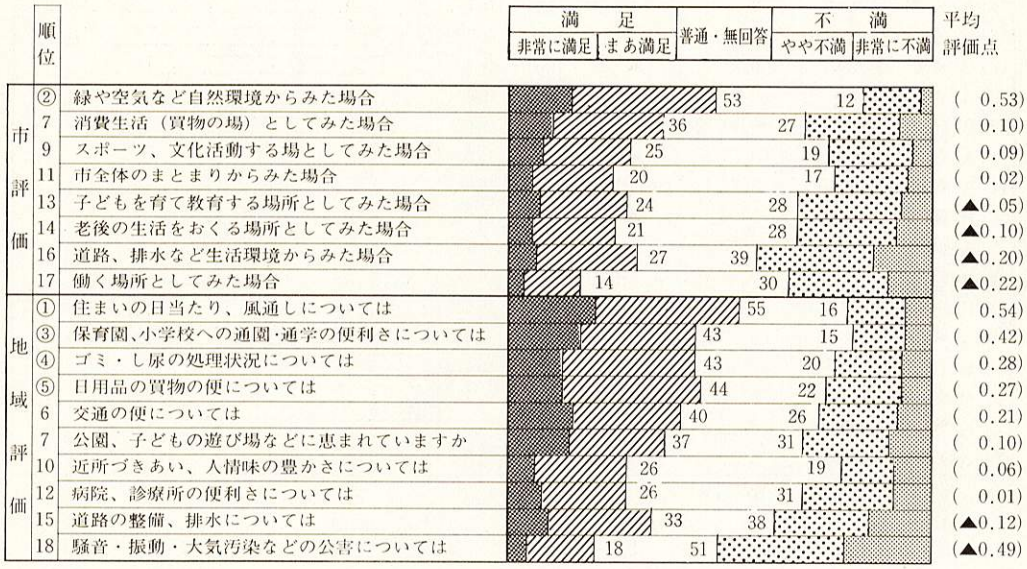
その他特徴的なことは、高齢者ほど評価がよく、自営業、市内就業者、持家生活者といった市内生活時間の長い人や市に定着している人も評価がよい。地域的にみると、武蔵野、福生、熊川住宅などのA地区ではやや評価が低いが、その他の地区ではほぼよい評価がされている。ちなみに14地区分類でみると、平均評価点の最もよい地区は８地区（志茂１、北田園など）の0.63で、３地区（武蔵野、福東など）は0.05である。しかし平均評価点が＋0.25を下まわる地区はこの３地区だけである。


住みよい
普通・無回答
住みにくい
(平均評価点)
ブロック
A 33 19 (0.18)
B 41 12 (0.33)
C 44 12 (0.36)
D 46 13 (0.42)
E 43 15 (0.33)
F 47 4 (0.54)
G 44 11 (0.36)
性
男 42 12 (0.37)
女 43 12 (0.35)
年齢
未婚 39 16 (0.26)
既婚 20 — 34 45 17 (0.27)
34 — 44 34 11 (0.27)
45 — 54 48 7 (0.51)
55 — 46 7 (0.56)
職業
勤労者 42 15 (0.32)
自営・管理職 48 5 (0.49)
主婦専業 43 12 (0.35)
勤労主婦 44 13 (0.37)
無職 38 5 (0.49)
居住歴
出生時～ 56 5 (0.64)
S19年以前 46 8 (0.46)
S20 — S24年 53 2 (0.70)
S25 — S29年 46 4 (0.50)
S30 — S34年 46 7 (0.48)
S35 — S39年 38 10 (0.33)
S40 — S44年 31 15 (0.17)
S45 — S49年 42 13 (0.32)
S50年以降 37 24 (0.13)
住居形態
持家 45 10 (0.44)
借家 34 16 (0.20)
公営住宅 43 11 (0.38)
アパート他 45 16 (0.26)
就業地
市内 47 9 (0.43)
市外 40 14 (0.31)
非就業者 42 11 (0.38)

2．部　分　評　価

1）部分評価（諸環境の評価）

質　問　福生市全体について伺います。あなたは福生市の住みよさについてふだんどのように感じていますか。それではあなたの住まいの近くの生活環境について伺います。



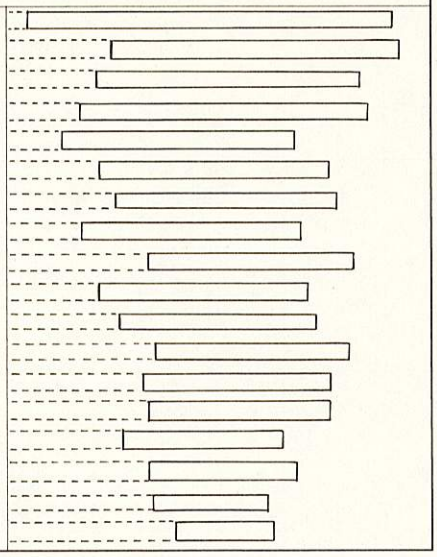
次に市全体と居住地域について局面ごとに評価を問うた。この中では「緑・空気」「日当り・風通し」といった自然環境の評価がかなりよく、平均評価点にして＋ 0.5を上回る。「通園・通学の便」もかなりよい。

一方、評価の低い項目は「騒音・振動などの公害」がワースト１で▲0.49に達する。しかし市の全体評価がかなりよかったようにめだって評価の悪い項目は、この「公害」程度でマイナス評価は６項目にとどまる。なお、居住地区の評価点としてはそれほどマイナスがめだたないが、市全体としてみるとマイナスが多々みられる。「働く場」「老後の暮らしの場」「子育て環境」など、それぞれを総合的にみるとよいとはいえないとされている。しかし「子育て環境」を例にとると「子育て環境」の評価が低くとも「通園・通学の便」の評価は高く、「子どもの遊び場」も不満は少ない。したがって、これは「子育て環境」に対して不満30％弱、満足20％強、普通50％弱という関係をみると、不満（マイナス評価）というよりも、より以上の環境を望んでいるため、普通であるという見方が50％近くを占めるともうけとれる。「働く場」「老後の暮らしの場」にしても同様である。

「道路環境」は居住地域、市全体のいずれからしても、不満の傾向が強く、「公害」とともに要検討項目とされる。

2）部分評価の違いによる全体評価

満足度の順位	生活環境の諸局面	全体評価の平均評価点		住みにくさを与える要因 ―平均評価点の差(レンジ)―	
		満足している人	不満な人	順位	
11	A）市全体のまとまり	0.87	▲0.23	①	1.10
14	A）老後の生活をおくる場	0.89	0.02	②	0.87
13	A）子育て環境	0.77	▲0.02	③	0.79
16	A）道路・排水など生活環境	0.80	0.08	④	0.72
③	B）通園・通学の便	0.57	▲0.13	⑤	0.70
9	A）スポーツ・文化活動	0.68	▲0.01	6	0.69
10	B）近所づきあい	0.70	0.03	7	0.67
②	A）自然環境	0.59	▲0.07	8	0.63
17	A）働く場	0.75	0.14	9	0.61
⑤	B）買物の便	0.60	▲0.01	9	0.61
7	A）買物の場	0.63	0.05	11	0.58
18	B）公害	0.73	0.16	12	0.57
15	B）道路の整備・排水	0.68	0.12	13	0.56
12	B）病院・診療所の便	0.67	0.13	14	0.54
①	B）日当り	0.53	0.06	15	0.47
6	B）交通の便	0.57	0.14	16	0.37
④	B）ゴミ・し尿の処理	0.50	0.15	17	0.35
7	B）公園・子どもの遊び場	0.51	0.22	18	0.29



注）A…市評価　B…地域評価

部分評価の低かった「公害」「道路環境」などを改善していくことは住みよい街づくりとして重要なことではある。しかし、住みよさに与える影響度と評価の低さは必ずしも一致しない。したがって各項目ごとに満足している人の市全体に対する評価と不満を持っている人の全体評価を比較してみると、市全体の住みよさへの影響度の強さが測れる。つまり、どの局面で満足されていれば市全体の評価がよくなり、どの局面で不満を持っていることによって市全体の評価が悪くなるのかがわかるのである。

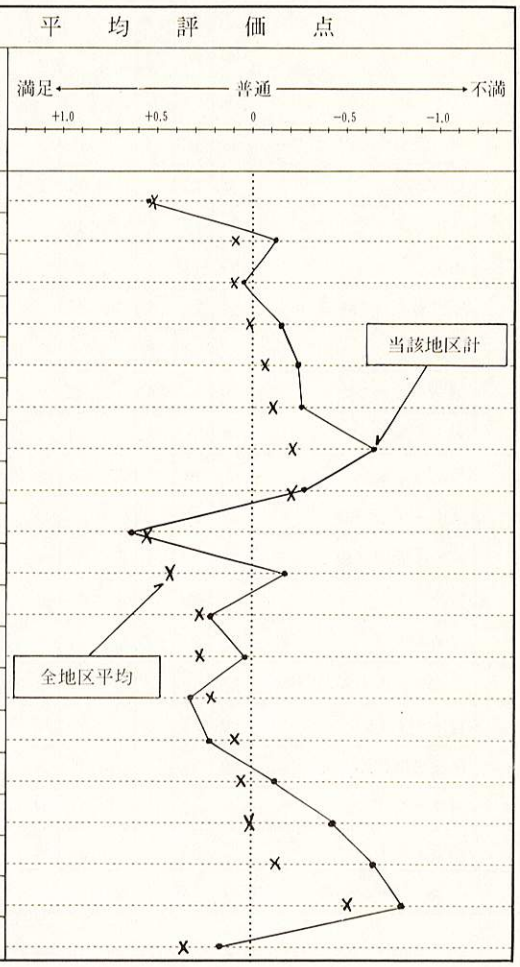
この表は両者の全体評価の差の大きい順に整理したものである。したがって上位にあるほど住みよさへの影響力の強い要因である。

このようにしてみると「市全体のまとまり」が最も影響力が強いといえる。「市全体のまとまり」は、部分評価の平均評価点は普通に近かったが、満足している人と、不満な人では、住みよさの評価が著しく異なる。次いで「老後の暮らしの場」「子育て環境」が上位にくる。「通園・通学の便」も上位にあり、教育に対する関心が強いといえる。これは中年層の年代が多いことにもあろう。また「医療機関の便」「買物の便」といった利便性より「近所づきあい」「スポーツ・文化活動」といったコミュニティ関係が上位にあるのも特徴的である。ある程度利便性の整った都市ではこれらの果たす役割が大きいものと考えられる。なお「公園・子どもの遊び場」「ゴミ・し尿処理」「交通の便」は影響力が小さいといえる。

3）地域別 部分評価

A．福生熊川住宅、南、内出、武蔵野、武蔵野第２、福東

		満足度(%)	不満度(%)	順位	平均評価点	7地区順位
市全体としての評価	緑・空気など	54	15	2	0.55	②
	買物の場	29	35	9	−0.13	6
	スポーツ・文化活動の場	25	21	6	0.05	5
	市としてのまとまり	17	24	10	−0.15	7
	子どもを育てる場	25	37	12	−0.23	6
	老後の暮らしの場	22	41	13	−0.29	7
	道路・排水など	15	56	17	−0.64	7
	働く場	7	31	14	−0.30	5
居住地域の評価	日当り・風当り	56	12	1	0.63	②
	通園・通学の便	24	34	11	−0.18	7
	ゴミ・し尿処理	45	25	5	0.21	4
	買物の便	38	29	7	0.02	6
	交通の便	43	21	3	0.33	④
	公園・子どもの遊び場	40	27	4	0.22	3
	近所づきあい	17	26	8	−0.11	6
	医療機関の便	18	46	15	−0.42	7
	道路の整備	18	55	16	−0.62	7
	騒音・振動など	14	63	18	−0.80	7
全体評価		33	19	※	0.18	7



注）７地区順位の◯囲み数字は全地区平均より評価のよい項目

A地区は７地区の中で最も全体評価が低い。これは他地区と比べてめだって評価のよい項目がない反面、かなり劣る項目が多くみられることによる。

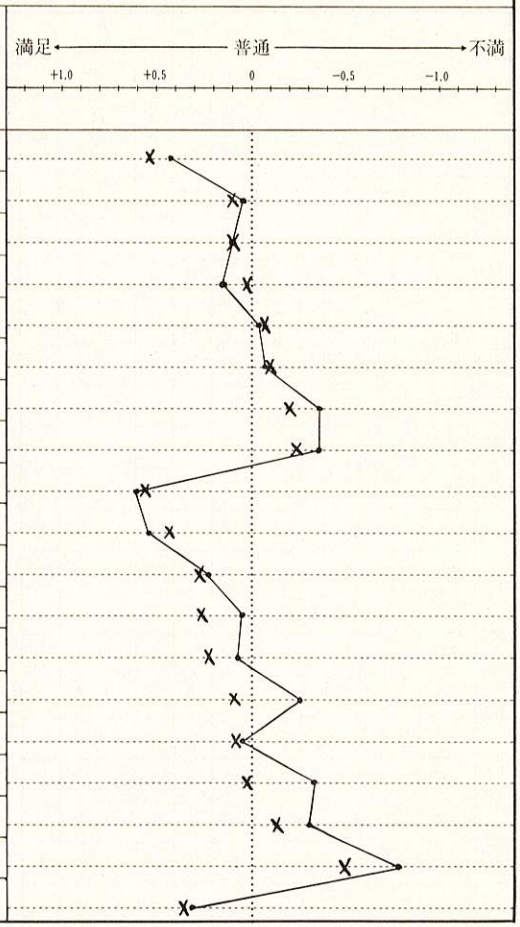
他地区よりややよいのは「緑・空気」などの自然環境と交通の便だけである。

一方、「道路環境」「医療機関の便」「通園・通学の便」などは他地区と比べるとかなり評価が劣る。「騒音・振動」も７地区の中で最も評価が悪い。

このようにして７地区の中で最も評価の悪い項目が７項目に及ぶ。また平均評価点がプラスにあるのは７項目しかない。したがって全地区の中で最も住みにくい地区とされている。

B．富士見台、福栄、玉川台、鍋ヶ谷戸１・２

		満足度(%)	不満度(%)	平均評価点 順位	平均評価点 平均評価点	平均評価点 7地区順位
市全体としての評価	緑・空気など	48	16	3	0.42	6
	買物の場	31	25	8	0.05	5
	スポーツ・文化活動の場	28	19	6	0.09	4
	市としてのまとまり	23	13	5	0.12	②
	子どもを育てる場	23	25	11	−0.03	③
	老後の暮らしの場	22	28	12	−0.06	③
	道路・排水など	19	44	16	−0.38	6
	働く場	8	38	16	−0.38	7
居住地域の評価	日当り・風当り	57	13	1	0.58	③
	通園・通学の便	42	12	2	0.52	④
	ゴミ・し尿処理	40	23	4	0.21	4
	買物の便	33	30	10	0.04	5
	交通の便	35	29	7	0.08	5
	公園・子どもの遊び場	25	46	13	−0.29	6
	近所づきあい	29	23	8	0.05	4
	医療機関の便	20	44	15	−0.34	5
	道路の整備	24	47	14	−0.32	6
	騒音・振動など	5	64	18	−0.79	6
全体評価		41	12	※	0.33	5



注）７地区順位の◯囲み数字は全地区平均より評価のよい項目

Ｂ地区は全地区平均を上回るものが少ない。「市としてのまとまり」など５項目にとどまる。それもわずかによいという程度であって特徴的によいといえるところがない。

一方、めだって不満の高くなる項目もないが、「騒音・振動」「医療機関の便」「公園・子どもの遊び場」などは他地区と比べるとかなり劣っているといえよう。

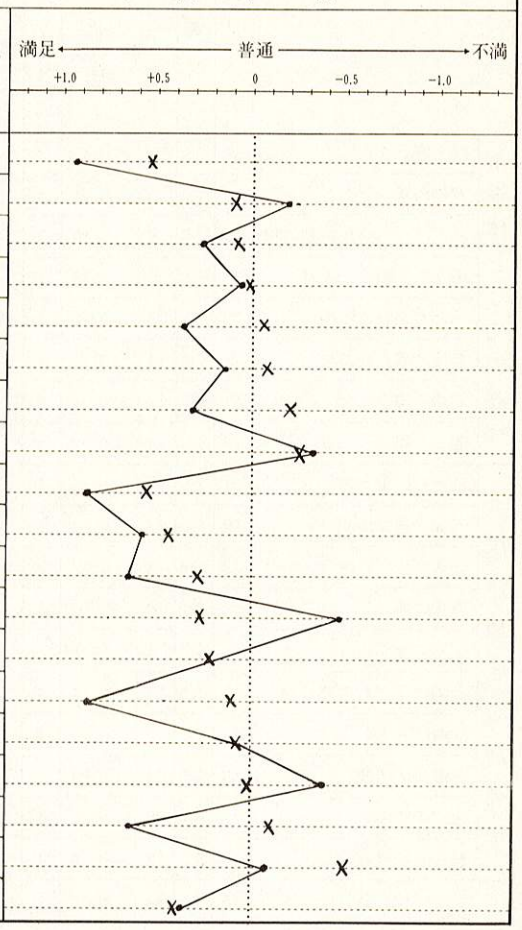
主な不満は上記の他に「道路環境」「働く場」などである。

したがって全体評価も低く５位にあたる。

C．南田園、志茂１、北田園、福生団地

		満足度(%)	不満度(%)	平均評価点 順位	平均評価点	7地区順位
市全体としての評価	緑・空気など	50	5	1	0.94	①
	買物の場	26	43	15	−0.19	7
	スポーツ・文化活動の場	32	10	9	0.26	①
	市としてのまとまり	26	19	12	0.05	④
	子どもを育てる場	38	16	7	0.36	①
	老後の暮らしの場	26	18	10	0.12	①
	道路・排水など	48	19	8	0.30	①
	働く場	12	38	16	−0.31	6
居住地域の評価	日当り・風当り	67	7	2	0.87	①
	通園・通学の便	44	8	6	0.57	③
	ゴミ・し尿処理	55	6	4	0.62	①
	買物の便	35	37	13	0.02	6
	交通の便	16	49	18	−0.48	7
	公園・子どもの遊び場	69	12	3	0.85	①
	近所づきあい	23	17	11	0.06	3
	医療機関の便	20	45	17	−0.37	6
	道路の整備	63	12	5	0.61	①
	騒音・振動など	33	39	14	−0.10	①
全体評価		44	12	※	0.36	3

平均評価点



注）７地区順位の◯囲み数字は全地区平均より評価のよい項目

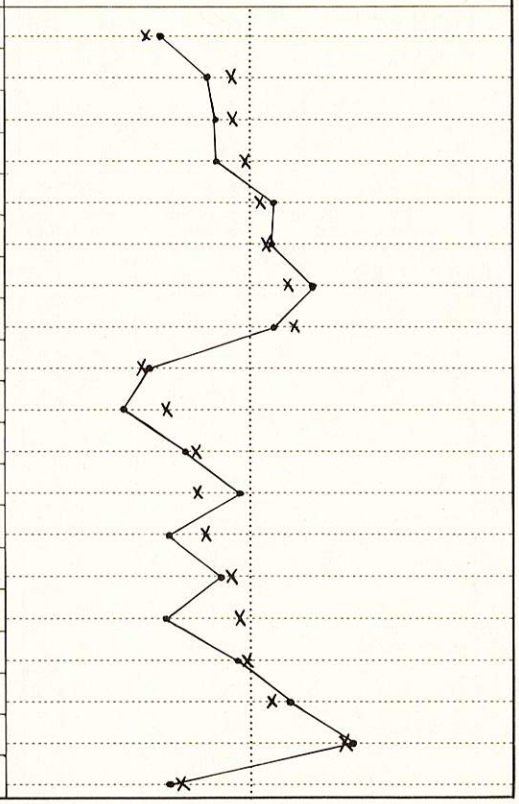
C地区は、他地区よりかなり評価が高い項目が多く、７地区順位でも１位の項目が10項目を数える。特に評価の高いのは、「緑・空気」「日当り・風当り」「公園・子どもの遊び場」で平均評価点0.8を超している。

その他評価のよい項目は「道路環境」「ゴミ・し尿処理」「子育て環境」などである。「騒音・振動」もそれほど評価は低くない。

しかし、「交通の便」「買物の便」「医療機関の便」など利便性の面で他地区と比べてめだって評価が劣る。また、「働く場」にしても評価が低い。したがって、７地区順位の１位の項目が多いのにもかかわらず、全体評価は３番めとなる。

D．熊牛、牛浜１・２

		満足度(%)	不満度(%)	平均評価点 順位	平均評価点 平均評価点	平均評価点 7地区順位
市全体としての評価	緑・空気など	53	16	3	0.47	5
	買物の場	37	18	7	0.21	③
	スポーツ・文化活動の場	28	13	8	0.19	②
	市としてのまとまり	25	12	9	0.18	①
	子どもを育てる場	22	30	13	−0.11	4
	老後の暮らしの場	21	28	14	−0.12	4
	道路・排水など	21	45	17	−0.34	5
	働く場	18	23	14	−0.12	③
居住地域の評価	日当り・風当り	54	23	2	0.51	4
	通園・通学の便	58	8	1	0.68	①
	ゴミ・し尿処理	43	20	6	0.32	③
	買物の便	25	22	12	0.05	4
	交通の便	48	16	5	0.41	③
	公園・子どもの遊び場	43	32	10	0.14	④
	近所づきあい	48	13	4	0.44	①
	医療機関の便	33	24	11	0.09	④
	道路の整備	22	33	16	−0.22	4
	騒音・振動など	20	54	18	−0.55	4
全体評価		46	13	※	0.42	②



注）７地区順位の◯囲み数字は全地区平均より評価のよい項目

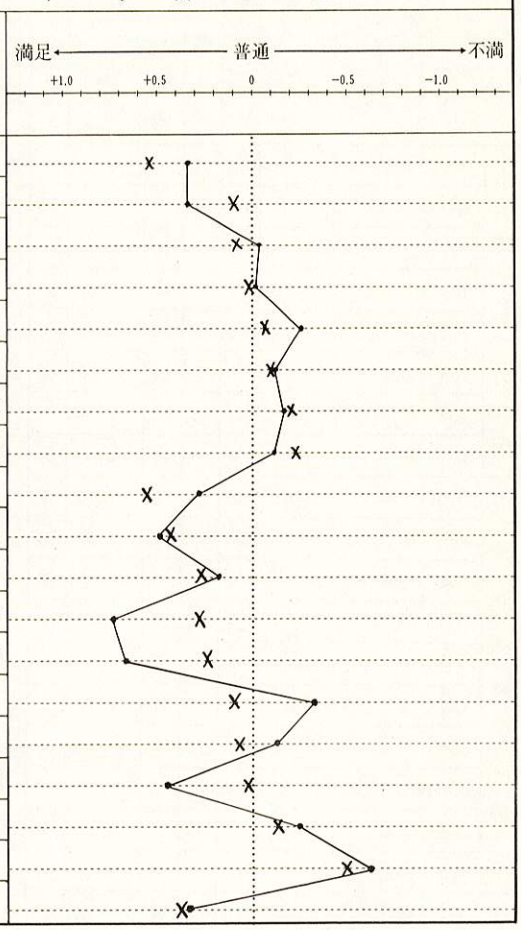
Ｄ地区は、「通園・通学の便」の評価が最もよいが、「近所づきあい」「市としてのまとまり」「スポーツ・文化活動」といったコミュニティの関係の項目で他地区よりよいのが特徴である。また全地区平均より劣っている項目が半数近くあるが、それほどめだって評価の低い項目もなく、ほぼ、全地区平均に近い。また、全体評価は２番目によい。

主な不満は、「騒音・振動」と「道路整備」であるが、それほど不満が強いわけではない。また、「緑・空気」「日当り・風当り」など自然環境の評価が他地区よりやや落ちるが、全地区平均とそれほど差はない。

E．志茂２、原ヶ谷戸、本町７

		満足度(%)	不満度(%)	順位	平均評価点	7地区順位
市全体としての評価	緑・空気など	45	13	5	0.33	7
	買物の場	46	17	5	0.33	①
	スポーツ・文化活動の場	20	22	10	−0.03	6
	市としてのまとまり	18	21	9	−0.01	5
	子どもを育てる場	12	32	15	−0.26	7
	老後の暮らしの場	18	26	12	−0.13	5
	道路・排水など	32	41	14	−0.19	④
	働く場	20	28	11	−0.11	②
居住地域の評価	日当り・風当り	42	22	7	0.26	7
	通園・通学の便	46	13	3	0.49	⑤
	ゴミ・し尿処理	38	25	8	0.15	6
	買物の便	55	8	1	0.72	①
	交通の便	54	9	2	0.66	①
	公園・子どもの遊び場	16	37	17	−0.33	7
	近所づきあい	22	25	13	−0.15	7
	医療機関の便	46	16	4	0.44	①
	道路の整備	32	48	16	−0.27	5
	騒音・振動など	12	58	18	−0.64	5
全体評価		43	15	※	0.33	5

平均評価点



注）７地区順位の◯囲み数字は全地区平均より評価のよい項目

Ｅ地区は「買物の便」「交通の便」「医療機関の便」といった利便性でめだって評価がよい。市全体評価としての「買物の場」もあわせ７地区の中で最も評価がよい。

しかし「子育て環境」「公園・子どもの遊び場」「近所づきあい」といったコミュニティ関係、「緑・空気」「日当り・風通し」など自然環境は７地区の中で最も評価が低い。

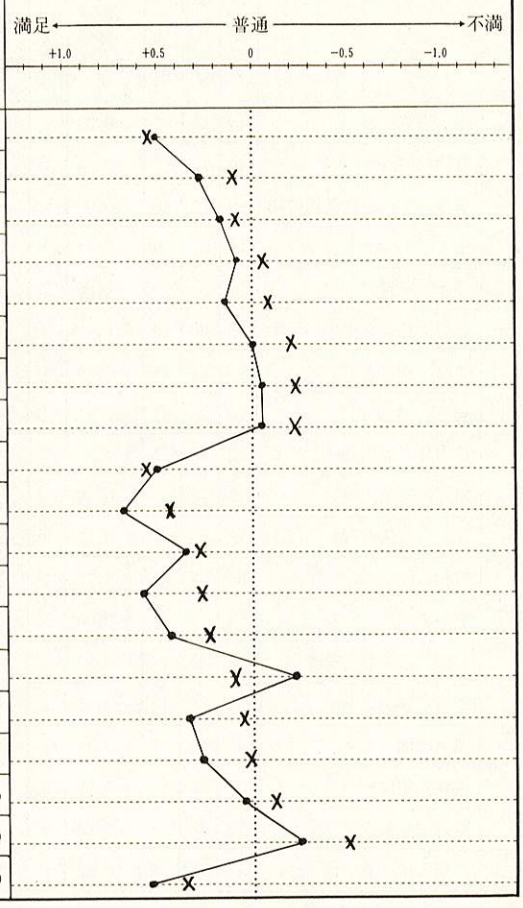
利便性に恵まれている反面、これらの環境にあまり恵まれていない。したがって全体評価は７地区の中で５番目となる。

主な不満は「騒音・振動」「道路整備」「公園・子どもの遊び場」である。

F．本町1～3、中央6、永田、長沢1・2、加美1・2

		満足度(%)	不満度(%)	順位	平均評価点	7地区順位
市全体としての評価	緑・空気など	52	11	3	0.50	3
	買物の場	43	24	8	0.28	②
	スポーツ・文化活動の場	28	19	10	0.17	③
	市としてのまとまり	21	14	12	0.09	③
	子どもを育てる場	28	19	11	0.14	②
	老後の暮らしの場	24	25	14	0	②
	道路・排水など	29	33	15	−0.05	②
	働く場	21	24	15	−0.05	①
居住地域の評価	日当り・風当り	58	20	3	0.50	5
	通園・通学の便	56	10	1	0.67	②
	ゴミ・し尿処理	44	21	6	0.34	②
	買物の便	57	16	2	0.58	②
	交通の便	49	24	5	0.43	②
	公園・子どもの遊び場	25	43	17	−0.23	5
	近所づきあい	40	11	7	0.33	②
	医療機関の便	44	25	9	0.27	③
	道路の整備	38	36	13	0.03	②
	騒音・振動など	21	38	18	−0.25	②
全体評価		47	4	※	0.54	①

平均評価点



注）7地区順位の◯囲み数字は全地区平均より評価のよい項目

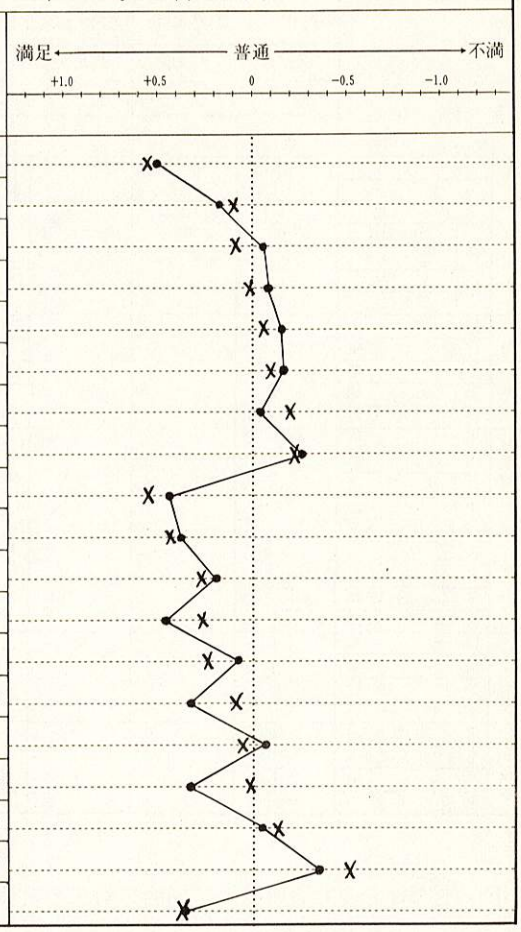
F地区は、とび抜けて評価のよい項目もないものの、ほとんどの項目で全地区平均を上回り、しかもマイナス評価は4項目にとどまっている。したがって7地区の中で最も全体評価も高い。

満足度の高い主な項目は、「通園・通学の便」と「買物の便」である。この両者はいずれも全地区平均的に比べてかなりよい。その他近所づきあい、「医療機関の便」も比較的満足され、「働く場」としても他地区ほど不満がめだたない。

主な不満は、「騒音・振動」と「公園・子どもの遊び場」である。「騒音・振動」は、他地区ほど不満が著しくないが、「公園・子どもの遊び場」は7地区の中で不満の高い方である。

G．本町８、本町８第２、武蔵野台、加美平住宅

		満足度(%)	不満度(%)	平均評価点 順位	平均評価点 平均評価点	平均評価点 7地区順位
市全体としての評価	緑・空気など	53	11	1	0.50	4
	買物の場	39	23	8	0.16	④
	スポーツ・文化活動の場	20	24	12	−0.06	7
	市としてのまとまり	12	19	14	−0.10	6
	子どもを育てる場	21	33	15	−0.17	5
	老後の暮らしの場	16	29	16	−0.18	6
	道路・排水など	27	32	10	−0.05	②
	働く場	13	28	17	−0.24	4
居住地域の評価	日当り・風当り	50	19	3	0.43	6
	通園・通学の便	42	14	4	0.38	6
	ゴミ・し尿処理	41	23	7	0.19	5
	買物の便	56	14	2	0.46	③
	交通の便	34	29	9	0.07	6
	公園・子どもの遊び場	44	20	5	0.32	②
	近所づきあい	14	19	13	−0.09	5
	医療機関の便	43	15	5	0.32	②
	道路の整備	30	34	10	−0.05	③
	騒音・振動など	21	42	18	−0.35	③
全体評価		44	11	※	0.36	3



注）７地区順位の◯囲み数字は全地区平均より評価のよい項目

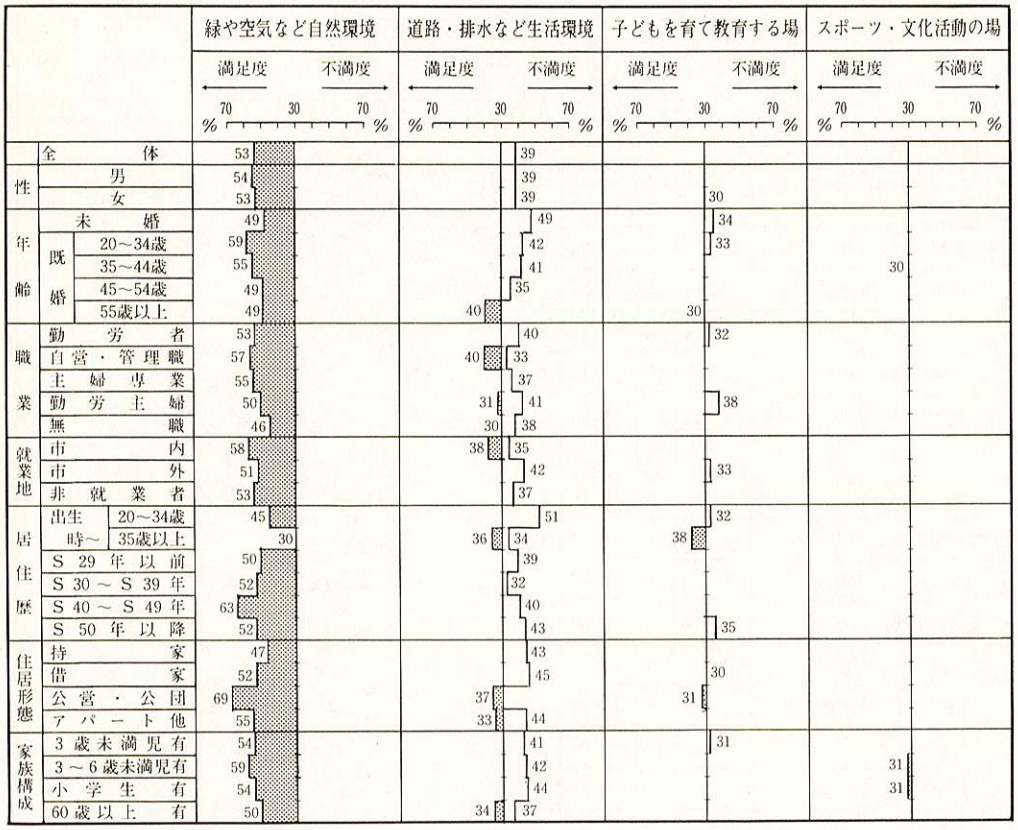
Ｇ地区は、全地区平均とほとんど変わらない評価をしている。全地区平均よりかなりよい項目は「医療機関の便」である。「子どもの遊び場」「買物の便」もややよい。

一方、不満の高い項目は「騒音・振動」であるが、他地区の平均評価点と比べると、それほど評価の低い数値ではない。

項目別に最もよい評価をしているものがないものの、めだって劣るものもない。したがって、全体評価は三番目によい。

4）属性別 部分評価

ア．市評価

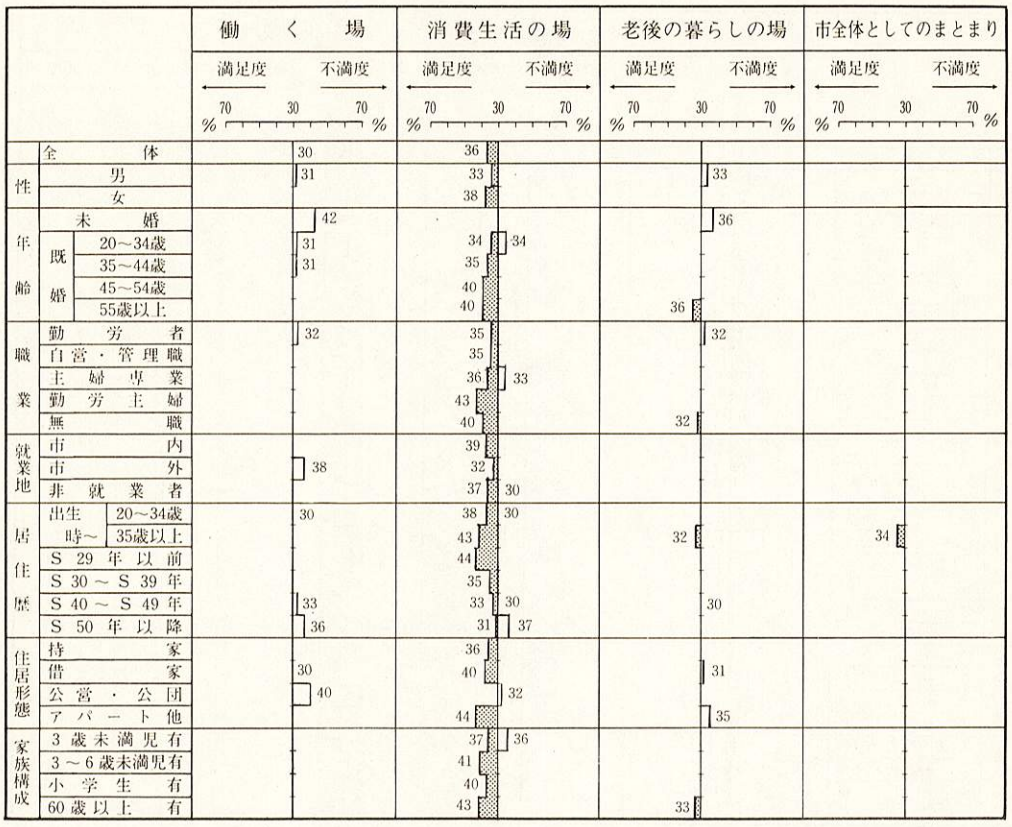


市全体に対する生活環境の諸局面に対する評価をみてみると、「緑や空気などの自然環境」については、どの市民層も30%を超える不満はなく、総じて、満足されている。しかし、生まれた時から住んでいる中高年層には高い評価をする人が少なくなっている。

「道路・排水など生活環境」については、比較的不満を持っている人が多く、特に未婚者をはじめとする若年層に不満が強い。

「子どもを育て教育する場」については、「普通」とする人が多数を占めるが、属性別にみると、若年層、特に勤労主婦の間でやや不満の高いのがめだっている。

「スポーツ・文化活動の場」についても「普通」とする人が多く、30%を超える満足・不満はほとんどみられない。



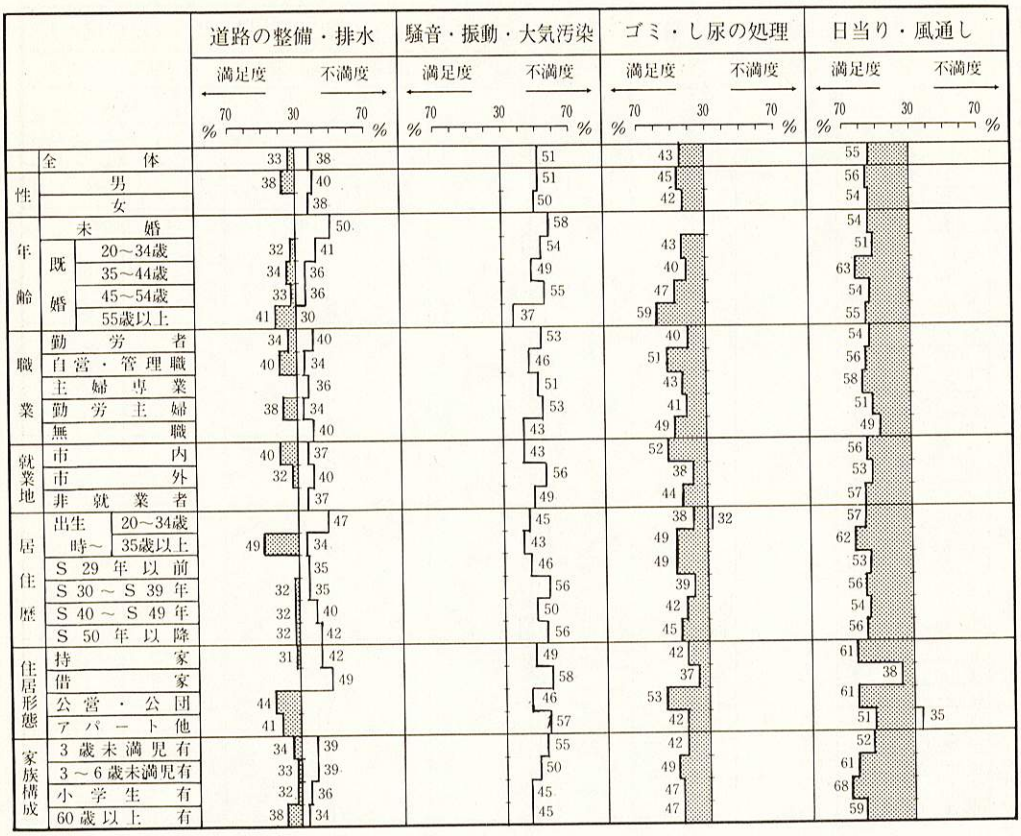
「働く場」としての評価も「普通」とする人が多数を占めるが、どちらかといえば不満の傾向が強い。未婚者や、市外就業者、居住歴の浅い人、公営・公団に居住する人に不満がやや多くみられる。

「消費生活の場」としては、全般的に満足されているといえる。特に主婦をはじめとする女性や高年層、居住歴の古い人に評価が高い。一方、最近転入してきた人や、乳児などのいる世帯では不満とする人がやや多くなっている。

「老後の暮らしの場」としては、やはり「普通」とする評価が多く、比較的不満が高い層としては、未婚者、アパート住まいの人などがあげられる。

「市全体のまとまり」についても「普通」とする人が多く、はっきりとした評価をしている人が少ない。属性別にみても、生まれた時から住んでいる35歳以上の人にやや高い満足が得られているのみである。

イ．地域評価



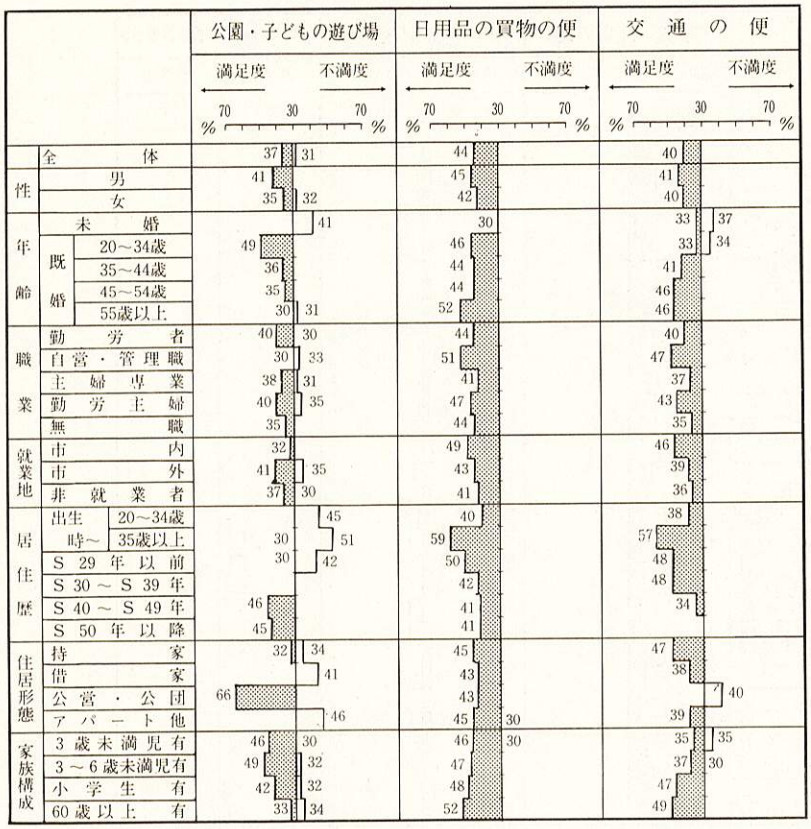
次に、居住地域に対する生活環境の評価をみてみると、「道路の整備・排水」については、不満とする向きが強い。特に未婚者をはじめとする若年層や居住歴の浅い人、持家・借家住まいの人に不満が多くなっている。

一方、生まれた時から住んでいる高年層や公営・公団・アパート住まいの人には、それほど強い不満はみられていない。

「騒音・振動・大気汚染」などの公害については、どの市民層も強い不満を表明しており、今後の重要な課題といえよう。

「ごみ・し尿の処理」については、生まれた時から住んでいる若い人を除いては30%を超える不満がなく、総じて満足されている。満足の高い層としては、55歳以上の高齢者や、市内就業者、公営・公団住まいの人などがあげられる。

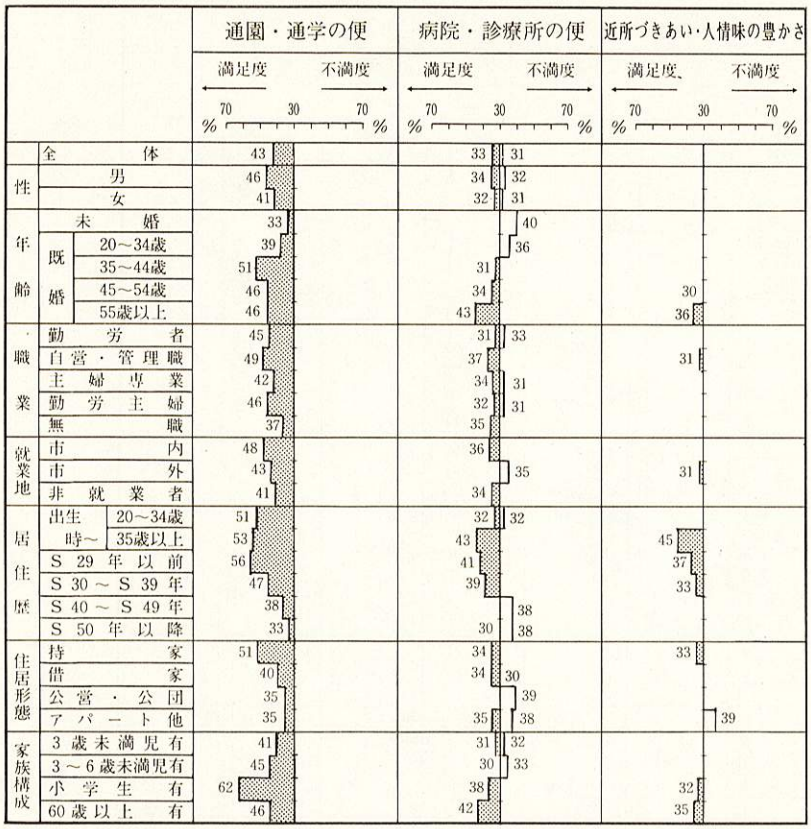
「日当り・風通し」についても高い評価を得ており、あまり問題はないといえる。ただ、借家住まいの人にはそれほど評価が高くなく、アパート住まいの人に不満がやや多いのがめだっている。



「公園・子どもの遊び場」は公営住宅の人はかなり満足している。しかし、その他の住まいの人はどちらかといえば不満に近い。子どものいる世帯としてみると、満足している人が多い。

「日用品の買物の便」は全般に満足の傾向にある。未婚者の満足度が低いが格別不満があるわけではなく“普通”とされている。

「交通の便」は若い人や公営住宅の人にやや不満がある。居住歴の浅い人も満足はしていない。高年層、居住歴の長い人は比較的満足している。



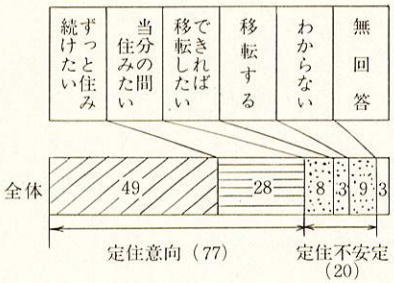
「通園・通学の便」については子どものいる世帯で満足の傾向にあり、ほぼ満足されているといえよう。ことに小学生のいる世帯では満足度が高い。居住歴の浅い人は満足度が低くなるが、これは“普通”“無回答（わからない）”という人が増えるためで不満が高いというわけではない。

「病院・診療所の便」は属性によって意見がくい違っている。若い人や居住歴の浅い人、市外就業者はやや不満があり、高齢者、居住歴の長い人、市内就業者などは比較的満足している。

「近所づきあい、人情味の豊かさ」については不満も少ないものの、満足もない。居住歴の長い人や高齢者にややみられるが、満足というほどでもない。したがって日頃の近所づきあいがそれほど親密でもないとうかがわれる。

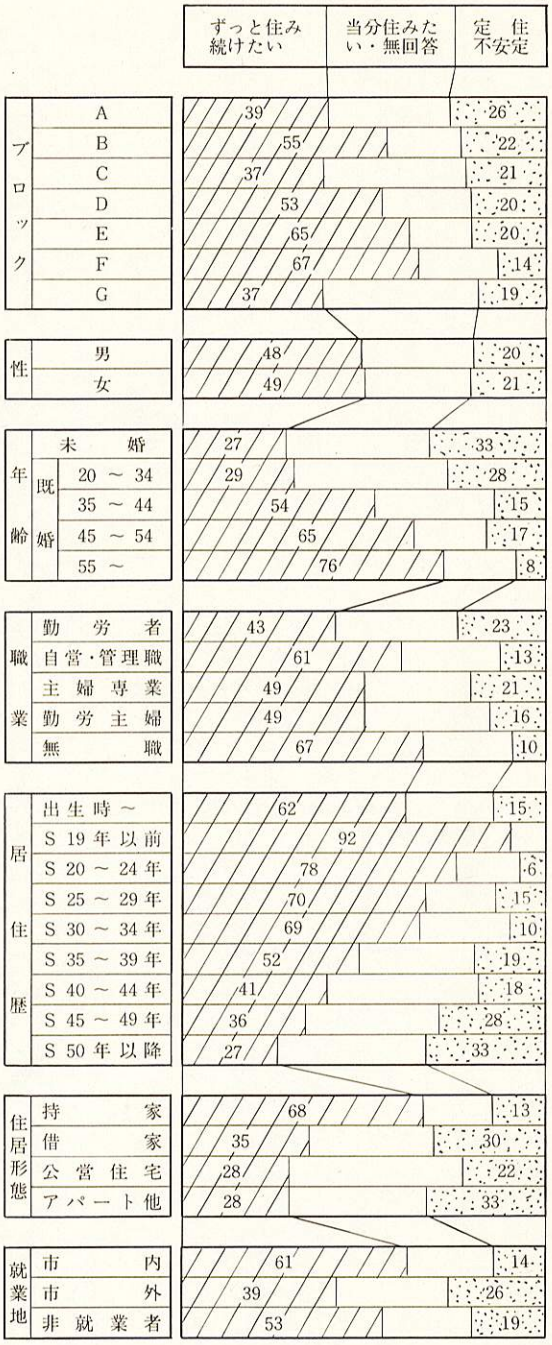
3．定 住 意 向

質問　あなたは今後も福生市に住み続けたいと思いますか。次のなかからあなたのお気持ちに最も近いものを１つだけ選んでください。



福生市に今後とも「ずっと住み続けたい」という人が50％近くを占める。また「当分の間は住みたい」という人も30％近く、これらをあわせると80％近くの人が定住意向を持っている。都市部としてはかなり高い定住意向をもっているといえよう。これに対して「移転したい」あるいは「わからない」という定住の不安定な人は20％にとどまる。

年齢別に定住意向をみると35歳からは安定傾向にある。既婚、未婚にかかわらず、若い人はやや定住意識が低く、30％に満たない。

居住歴からすると昭和34年以前の居住者からは安定傾向にある。したがって20年が１つの目安となる。昭和45年以降、10年未満では不安定さが残っている。

しかし、住居形態との相関が最も大きく、持家でない人は、定住意向30％前後にとどまり、仮の住まいという意識が強い。